

郵便
報知新聞
第五百廿七号

人あつて其程々あるものと云ふは狐化つた
されども人か丁度化されぬ人
出逢ふ人か出逢ふ者か渡會縣
伊勢の國山田田の中世古村の何某へ
妻も何り子も何りながら遊里通ひ
のみくありにつまひ病ひ臥
て久敷枕もあつて月を經て死
に至りしと云ふ深き傷あつて乳母を雇
ひて我子と養ひ居るに乳の足らず
日みく瘦りゆく始ては妻のあり
あつた斯へあじ杯思ひつ寝る夜半
おは妻の枕邊に來り怨の教を言立
て泣き入り抱取乳房含せしに驚
き思ふ阿と一声喚ひつに女消え
てあつたのひあつたのひと

